

哲学対話 Vol.2

『闇バイト』への加担を防ぐために私たちができることを考えましょう！

○福嶋 美貴¹⁾、今泉 源²⁾、小坂坂 益成³⁾、中井 理賀⁴⁾

- 1) 中部大学生命 健康科学部 保健看護学科、2) 名古屋市立大学大学院看護学研究科、
3) 松蔭大学看護学部看護学科、4) 愛知県立大学看護学部看護学科

目的：アディクションに陥り闇バイトに加担しないために、精神保健看護の立場から私たちができる支援を実事例に基づいて考える。背景：闇バイトの撲滅に向けて警察庁が動き、2025年6月捜査員が架空の人物の身分証明書を使って闇バイトに応募し、犯行グループに接触する「仮想身分捜査」により実行役とみられる容疑者を詐欺未遂容疑で逮捕したと発表しました。またSNSで「闇バイト」を募集する投稿について、人工知能（AI）を使って自動的に抽出するシステムを導入するなど対策を進めています。私たちは、昨年の金沢大会にて、闇バイトの背景に存在するであろうアディクションを中心としたキーワードから自由に考え、精神保健看護からどのような支援があるか抽出するという目的を掲げ、WSを開催しました。多くの方にご参加頂き、多様な声が尊重され響き合い、新たな視点を獲得できた方も多かったのではないのでしょうか。この問題への関心の高さを改めて実感し、アディクションの問題は看過できないことを再認識しました。事後アンケートの自由記載には、またやってほしいという続編への期待と“改善策を挙げて社会へ（政府へ）学会として提言するようなことを目指してもよいと思った”という、より発展的な内容が確認できました。いきなり「社会に提言だ！」とはなりません、その実現可能性が少しでも高まるよう、今回は支援の実際にフォーカスします。本ワークショップの流れ：まず哲学カフェの説明をします。昨年、闇バイトにおける社会学的問題、情報リテラシーの問題、アディクションの3側面、その他としてSNSと現実社会の境界線の曖昧さ等を紹介しました。今年は昨年各グループで話された内容を振り返りつつ、彼らの心理学的、生物学的側面の情報、そして昨年とは異なる闇バイトに加担してしまった若者の事例をお示し、話題提供します。その後、グループディス

カッションで支援の実際を考えてもらい、まとめをします。当事者の方はご自身の経験を伝えてください。実体験の語りから、より豊かで実効性のある支援のありように繋がるからです。参加の呼びかけ：臨床の看護師などの専門職者、教員、研究者、自助グループで活動される当事者の方々、学生そしてリピーターも、初参加の方も大歓迎です。哲学カフェは身近な問題を深く考える場です。話題提供から思ったこと、感じたことを忌憚なくご発言ください。ルールは、何を言っても良いが、人の発言を否定しない、聴いているだけでもよい、経験に則して話す、途中退席自由の5つです。本学会の事業内容の一つに、「人々の精神の健康と福祉に貢献するための社会的活動」が記されています。精神の健康と福祉、つまりWell beingを一緒に考えましょう。今後、警察庁の新たな取り組みにより摘発率の向上が望めると考えられます。しかし、それだけでは根本的な解決には繋がらないはずです。彼らがなぜ闇バイトに手を染めていくのか、彼らにどのような支援が必要なのか、「罰」ではない何かを求め、ここから小さな1歩を踏み出しましょう。皆さんとご一緒できることを楽しみにしています。なお、本WSで提示する事例は、出版されている図書から引用するものであり、出典を明示すると共に、著作権に配慮して使用いたします。